学校番号	３１３

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	総合数学	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	実用数学セミナー　（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では課題に対して自ら考えて周りと協働して考える活動をしていきます。
・授業では板書を書き写すだけでなく、必要なポイントや他の生徒の発言で関連のあることなど、自らが気付いたことを記入していくことが大切です。
・問題集の問題を解くときは、ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。そして必ず答え合わせをしてください。答え合わせは、どこでつまずいたかを知り改善につなげるための大切なプロセスです。
・家庭学習では授業で配布したプリントや問題集などを解き、授業の復習をしてください。
課題提出を求めることもあります。毎日コツコツとやっていけるように計画をたてて勉学に励んでください。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　小学校，中学校で取り扱った内容の基本的概念や原理・法則を再度理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2)　論理的に考察する力，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
(3)　数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学の基本的な概念、原理・法則や探究するために必要な知識や技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	数の計算 割合 多項式の計算 乗法公式 因数分解 無理数の計算	a：四則の混じった式の計算順序を理解し，その計算ができる。展開の公式を利用できる。多項式に数をかける計算の方法を理解し，それらの計算をすることができる。単項式と多項式の乗法の計算ができる。因数分解の公式を利用できる。 b：単項式どうしの乗法や除法の計算について，数の計算や１年で学習した文字式の計算と関連付けて考察し，説明することができる。既に学習した計算の方法と関連付けて，式を因数分解する方法を見いだすことができる。有理数と無理数の違いについて考察し，説明することができる。 c：多項式に数をかける計算の方法を考えようとしている。式の値の求め方について，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。有理数と無理数の違いを考えようとしている。	定期考査	定期考査 小テスト 振り返りシート	提出物 観察

2学期	図形と計量	面積・体積 いろいろな図形の問題	a:四角形や三角形，円などの基本的な図形の性質について理解している。多面体，角錐，円錐の意味やそれらの特徴を理解している。平行四辺形，長方形，ひし形，正方形の間の関係を理解している。角柱，円柱，角錐，円錐の体積の求め方を理解し，それらを求めることができる。おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。三角形と線分の比の性質を用いて，線分の長さなどを求めることができる。 b: 底辺を共有する三角形の面積の関係を具体的な場面で活用することができる。空間における直線や平面の位置関係について考察し，説明することができる。おうぎ形の中心角の大きさと弧の長さや面積にどのような関係があるか考察し，説明することができる。三平方の定理を具体的な場面で利用できる c: 面積が等しい三角形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。立体を多面的に考察しようとしている。平行線と線分の比についての性質を見いだそうとしている。	定期考査	定期考査 小テスト 振り返りシート	提出物 観察

3学期	場合の数と確率	場合の数 確率	a: 樹形図を用いて，場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができる。和の法則，積の法則の利用場面を理解し，事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。確率の意味，試行や事象の定義を理解している。確率の基本性質を理解し，確率を求めることができる b: 場合の数を数える適切な方針を考察することができる。試行の結果を事象として捉え，事象を集合と結びつけて考察することができる。くじ引きが公平であるかどうかについて，その理由を確率に基づいて考察し，説明することができる。 c: 場合の数をもとにして得られる確率の必要性と意味を考えようとしている。1個のさいころを繰り返し投げる実験などを通して，統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。	定期考査	定期考査 小テスト 振り返りシート	提出物 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度